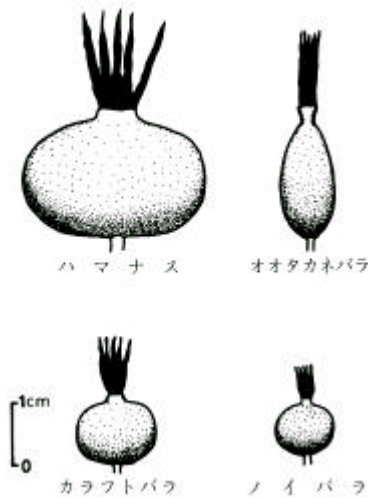


北海道に自生するバラ属のタネ

佐藤孝夫

北海道には4種類のバラ科バラ属の落葉低木が自生している。ハマナスは海岸の砂地に生え、オオタカネバラは高山に、カラフトバラ（ヤマハマナス）は山野の日当りの良い所に、またノイバラは原野や河岸などに自生している。いずれも樹高0.5～2mぐらいで、6～7月頃に咲く花と赤熟する果実が美しい種類である。このうち「北海道の花」に指定されているハマナスは緑化樹として公園・公共施設の広場などに広く使われているが、他の樹種はごく一部で庭木として植栽されているほかはほとんど用いられていない。（ノイバラはバラの接木の台木としては使われている。）これらバラ属の樹種は北海道の寒冷な気候に対する適応性もかなり広いことから、今後公園樹・庭木などの緑化樹として大いに利用されてほしい樹種のひとつである。

当场や道北支場に植栽されているこれらの樹木から果実を採取してきて、種子の粒数や重さなどを調べてみた。果実の形態は、図に示したようにハマナスは扁球形、オオタカネバラは紡錘形、カラフトバラ・ノイバラは球形で、いずれもバラ状果である。それぞれの種子の粒数や重さなどについては表に示したとおりである。種子のまきつけ時期はとりまきか春まきがよいが、一般には発芽に2年を要し、発芽率はおおよそ30～40%ぐらいである。なおハマナスはさし木でも良く発根することが知られている。（樹芸樹木科）



果実の形態

種子粒数と重量

樹種	1果実当り 種子粒数	種子		
		1粒重 (g)	1kg粒数	1,000粒重 (g)
ハマナス	73.7	302.8	91,733	11.1
	19-125	300.5-305.0	91,000-92,600	10.9-11.2
オオタカネバラ	19.6	618.0	40,433	24.9
	3-38	615.5-620.5	40,000-40,800	24.1-25.8
カラフトバラ	37.4	655.8	166,920	6.0
	1-89	649.5-662.0	164,400-168,800	5.9-6.1
ノイバラ	8.2	601.1	168,333	5.9
	3-15		158,000-176,000	5.5-6.3

測定時の含水率 ハマナス 16%，オオタカネバラ 14%，カラフトバラ 12%，ノイバラ 23%